

おいしーりんご♪ いただきます♪

10月11日、沼の倉のりんご畑で、なかやま保育園の年長児がりんごのもぎ取り体験をしました。
この日、園児たちが訪れたのは、志田重則さん（柳沢）のりんご畑。収穫したのは、真っ赤に色付き、旬を迎えた「しなのスイート」という品種のりんごです。
園児たちは、志田さんからおい



しりんごの見分け方やもぎ取り方を教わったあと、一番おいしうなりんごを探して畑を駆け回り、それぞれ自分で選んだりんごをもぎ取っていました。
雨が降り始めたため、その後は沼の倉りんご組合の小屋をお借りして雨宿り。その場でりんごをごちそうになりました。園児たちは、「私のりんご、甘くておいしーい！」と自分で選んだりんごのおいしさに大満足の様子。天候には恵まれなかったものの、楽しい思い出になったようです。



しなのスイートの話

「しなのスイート」は、長野県で生まれた、「つがる」と「ふじ」の交配種。10月中旬頃から収穫期を迎えます。

名前の通り、甘みが強く、果汁がたっぷりでジューシーなことが特徴のりんごで、子どもからお年寄りまで、多くの方に人気があるそうです。りんご農家の方からは「今年は9月に入ってからも暑い日が続く、昼夜の寒暖の差が大きかったため、色付きが鮮やか。縦縞もきれいに入って見た目も美しく実った」と話していました。

第80話 境界をめぐる争い

中山町 歴史散策

最上川は、洪水によって幾度も川筋を変えました。

一般的に、河川を境界にするのは、自然的境界では最も多く見られるもので、この場合の流路の変更はしばしば境界をめぐる紛争を生じさせることになりました。

長崎村と高屋村との境界争いは、最上川の流路移動が激しかった地域、川久保を巡るものでした。

享保13年（1728）の境界争いは、元文2年（1737）の口絵図で「川窪秣場」と記されていた川久保に両村の境（境塚）が設定されて収まりました。

この時、仲介に当たったのは平塩村名主の藤左衛門と達磨寺村長の三郎でした。

この時代は、最上川が川久保から北に流れ、高屋村のすぐ東側にありました。

ところが、天明4年（1784）に最上川が東に流路を変え、新押切川によって須川と合流した結果、旧流路の古川筋とその周辺では盛んに起

した。この、開発地（新開）を巡って境界紛争が起こりました。

寛政11年（1799）長崎・高屋両村の新開で野境が明確になり両村で掛合となりましたが、この時は石川村名主吉郎兵衛と嶋村名主金三郎の仲介によって両村が立会い境塚を新たに立てました。

新開は、北が高屋村分、南が長崎村分と話談内済として

【用語の説明】

- ・境塚：境界の場所に建立された石造や木造などの塔や碑を言う。
- ・起返り：復旧された田畑を言う。
- ・掛合：要求などについて先方と話し合うこと。交渉、談判。

※参考 中山町史 中巻 第9章第1節 風水害と対策

芋煮会川柳コンテスト結果発表

「第6回元祖芋煮会in中山」のイベントの一環として募集した「芋煮会川柳コンテスト」に、北は北海道、南は長崎県から136句の応募がありました。審査の結果、次の作品が入選・準入選となりました。力作ぞろいの応募作品は町公式ホームページでご覧いただけます。ご応募ありがとうございました。

- | 準入選 | 入選 |
|--------------------------------|------------------------|
| 芋煮食べ アツアツフーフー（夫婦） になりました【明日の風】 | 鍋の中 絆も煮てる 秋日和 【やじろべー】 |
| 芋煮会 フェイスブックより つながる輪【こぼんだ】 | 見ず知らず 芋煮困めば お友だち 【柳月】 |
| | 老若の 笑顔呼びこむ 芋煮会【おみえなし】 |
| | 芋煮会 やまがた秋の おもてなし【歌仙草】 |
| | 立ち上がる 元氣貰った 芋煮会 【つかぼう】 |



おいしくできたよ♪

10月4日、豊田小学校の児童が芋煮作りに挑戦しました。児童たちは、1年生から6年生の縦割り班に分かれ、6年生を中心に、材料を洗う係・切る係など役割分担を決め、手際よく作業を進めていきました。



この日の芋煮に入れた里芋は、5年生が育てたもの。5月に種芋を植え、収穫まで大切に育ててきたそうです。森谷佑衣ちゃん（3年生）は、「5年生が一生懸命育ててくれた里芋と、自分で切った材料が入っているからとってもおいしいです」と満足げ。班員全員で協力し、おいしい芋煮が完成したようです。

なかやま タイムスナップ Vol.6

今から52年前…

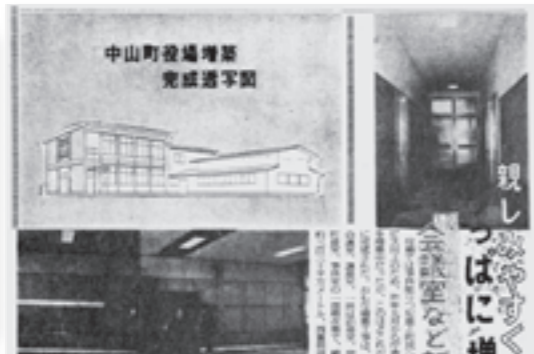
1961

(昭和36年)

役場庁舎の増改築



外装もスマートに 役場庁舎、完全仕上る



案内人 すもものしずくちゃん すもものしずくちゃんの詳細はフェイスブックで

5年後の昭和41年には東側の庁舎も改修され、現在の役場庁舎の形になったんです。役場耐震工事は年内いっぱいまで、何かとご迷惑をおかけしますがご協力をお願いします。

現在、耐震工事が行われている役場西側庁舎。この西側庁舎、今から52年前に増改築されたものです。その前の庁舎といえば、さらに80年以上も昔、明治5年ごろの木造建築物で、採光が悪く、職員が増えてきたこともあり事務室は手狭。町民や来賓からは、「用事を済ますのにどこに行ったらいいのかさっぱりわからない」「非常に時間がかかる」といった不満が多数あったようです。そんな声を反映し、当時としては近代的で、わかりやすく、すっきりスマートな役場庁舎が完成しました。